

父親・多胎児親子のコミュニティづくり

取組の背景・目的

児童センターは、コロナ禍による在宅勤務を契機に、ファミリーでの利用者が増えている。さらに、父親による乳幼児来館も増加傾向で、父子で遊具遊びをする姿が日常的になっている。しかし、父親と話をすると、「初めての子育てに戸惑いを感じる」「育児のヒントが欲しい」「話ができるパパ友が作りたい」という声が聞こえてきた。乳幼児期の育児に関わる父親同士の交流の場・情報交換の場など主体的な父親の活動の場を設けることは、父親の支援になると共に、地域の一員としてスタートをきる意味でも発展性があると考えた。児童センターの得意とする【遊び】を切り口に、地域の子育て仲間・コミュニティを作る事を目的に、『パパコミュ!』という父親事業を立ち上げた。また、ゆたか児童センターグループ(分館)の南ゆたか児童センター(令和3年改築)でも、父親向けの『フレッ!フレッ!パパ』を開始した。建て替え後にエレベーターや自動ドアが設置されたことを機に、これまで来館のハードルが高かった多胎児親子の交流や情報交換の場として『フレッ!フレッ!ツインズ!!』を開始した。

取組の概要

実施名称：『パパコミュ!』

実施場所：ゆたか児童センター 児童館 館内

実施頻度：第一土曜日 10:30~11:30

参加対象：0歳~2歳児までの子を育てる父親とその子

職員体制：正規職員主担当1名 正規職員サブ1名 ※父親事業のため主担当は男性職員とした

設置運営形態：公設公営

事業実施方法：直営

実施名称：『フレッ!フレッ!ツインズ!!』

実施場所：南ゆたか児童センター 児童館 館内

実施頻度：隔月に一回(土曜日実施) 10:30~11:30

参加対象：双子以上の乳幼児親子

職員体制：委託職員主担当1名 委託職員サブ1名

設置運営形態：公設公営

事業実施方法：一部運営委託 (株)ポピンズエデュケア

工夫点・留意点

【パパコミュ!】

- ・「お父さんと一緒に遊ぼう」という副題をつけ、父と子どもだけの参加であることを強調した。
- ・初めて参加する保護者が雰囲気馴染みやすいよう、少人数でのグループトークや、わが子と家でもできるふれあい遊びを多く取り入れている。
- ・母子の集い時に比べ、父親同士の会話量がいたって少ないが、無理をしない。寡黙な方や緊張している方などには職員が一声かけるようにしている。
- ・父親からの要望を常に聞き、父親自身が楽しめる活動も取り入れる。スポーツ(スラックライン、ボルダリング、卓球、ポッチャ)、工作(絵馬づくり、手形足型、写真立て)、バンド用のドラムセットをたたく、屋上での水遊びなど、児童センターに既存の設備や遊具を活用した。



【フレッ！フレッ！ツインズ！！】

- 多胎児を連れてのお出かけやイベントの参加は、母親一人では体力面や精神面の負担が大きい
ため、身近な児童センターで様々なことに親しめるようなプログラムを展開した。音楽や運動あ
そび、ヨガ、工作、マジック、絵本の読み聞かせなど、情操を育むプログラムを専門家や地域ボ
ランティアと共に実施した。
- 事業の後半では、多胎児子育て特有の悩みや情報を共有できる時間をつくり、明るく前向きな
子育てができるようサポートしている。

取組の効果

月 1 回の開催ながら、リピーターが多く、育児についての疑問や、仕事の話、わが子の可愛
いところなど、情報交換をしながら交友関係を広げることができている。父親同士が知り合った
ことで、家族同士の交流に発展しているケースもある。開催日以外でも遊んだり、相談に來たり
する利用者が増えた。また、子どもの様子や、遊んだことを、家に帰って夫婦間で共有し、子ど
もの成長を互いに認め合うきっかけにもなっている。

◆利用者の声◆

- 普段、なかなか話す事ができない父親同士で、スポーツや遊びを楽しむことができ、色んな話
をする事で、子育てに対して前向きになれた。
- 自分で抱えている子育ての悩み等を、他の方と共有できることによって、いろいろと学べる機
会となり、親として成長できるきっかけとなっている。
- 双子という特性上、外出のハードルが高く孤立していた。育児の楽しさや悩みを相談できる仲
間がいなかったが、この事業に参加したことで、仲間に出会い同じ目線で話や情報交換ができた。
- 異年齢の双子を育てる保護者との交流ができ、数年先のライフスタイルをイメージすることが
できた。また、双子グッズのリユース交換では、次の世代に必要なものを循環できたのが良かっ
た。

課題・今後の展開

- 参加者同士の交流を大切に、活動の幅をより一層、広げていく。「父親だからこそ！」をテー
マにアウトドア活動や、ダイナミック料理など、父親が主役になれる機会を設け、更なる交流を
図っていく。子どもまつりなど、地域関係との事業でも主体的に参加していけるようにする。
- 孤立しがちな多胎児を育てる親子に対して、地域の子育て拠点として適切な支援を行うために、
認知度を拡大していきたい。そのためには、妊娠期から産後のフォローアップ、他機関との連携
強化や多胎児のネットワークの構築など、多胎児支援の仕組みが必要である。
- 今後、インクルーシブな環境づくりをさらに発展させていくために、社会課題を的確にとらえ、
一人一人の利用者に寄り添うことが大切である。品川区では、全 25 館をグループ分けし、同じ
地域の中で、施設の特徴をいかした活動ができるように配置している。1 つの児童館ですべてを
担うのではなく、利用者が利用しやすい事業をエリアでとらえて実施していくなど、児童館はも
とより、子育て支援関係機関などと連携し、協力事業を増やしていきたい。